

## 令和元年度 新潟市地域と学校パートナーシップ事業の成果と課題

### (1) それぞれの立場からみた成果

#### ① 子どもにとって

- ・事業が学力の向上，社会性の育成，自己肯定感の伸長に大きなつながりがある。(8)
- ・学習や体験活動で，子どもがたくさんの地域の大人とかかわることで，認められる場，ほめられる機会が増え，健やかな成長を支えている。

#### ② 地域にとって

- ・小学校では，あいさつ運動や交通安全運動など，中学校では，防災訓練や福祉関係など，地域に貢献する取組，地域と交流する取組が増えている。
- ・ボランティア活動を通して，「元気をもらおう」「生きがいになる」「住民同士の結びつきが強まる」等の効果が見られる。

#### ③ 学校にとって

- ・地域教育コーディネーターと連携した取組が進み，地域の自然や文化など地域のよさや特色を学ぶ教育活動が行われている。

#### ④ 社会教育施設等にとって

- ・公民館や図書館等，社会教育施設等との交流や連携が充実してきている。(129校が公民館と連携。78校が図書館と連携。)

### (2) 令和元年度の課題に応じた方策からみた成果

#### ① 本年度の取組の重点である「その学校らしさのための『重点化』と目標共有の会を経た『役割分担』」について

- ・「重点化」をテーマに，各種研修会で説明したり，実践校の事例紹介をしたりしたことで，「自分の学校らしさ」のための「重点化」が各学校で進んでいるという評価を得た。
- ・これまで『重点化』と『役割分担』を進めてきたことにより，「仕事量の増加」や「仕事の種類の増加」に歯止めがかかった。
- ・実施計画書や実施報告書の形式を変更したことで，「重点化」に対する意識が高まった。(意識調査自由記述より)
- ・研修会において，地域住民や保護者と共に，「目指す子ども像」や「目指す地域像」等を話し合い，目標共有する中で「役割分担」を進めている実践校を紹介した。それにより，取組の具体的なイメージを持つことができたという評価を得た。(研修会アンケートより)

#### ② 研修の充実について

- ・教職員の地域学校協働活動に対する理解を一層促し，地域との連携協働を充実させていくために，各種研修会を充実させた。

- ・地域教育コーディネーターのスキルアップを図るため、情報交換の機会を保障したり、研修内容やグルーピングを含めた研修方法を改善したりしたことで、評価を得た。
- ③ 地域教育コーディネーターの勤務環境の改善について
  - ・勤務実態調査に基づき、学校規模による勤務実態の差に応じて、配当時間を考慮したところ、中学校ではやや改善の傾向が認められた。
  - ・勤務実態調査の中で、複数制採用校の地域教育コーディネーターが、複数制に対して、ほぼ全員がその良さを感じている。
- ④ 市民への周知の推進
  - ・地域と学校ウェルカム参観日を継続した結果、多くの保護者や地域住民に周知するきっかけとなった。

### (3) 今後の課題と事業推進の方向

- ① 「学・社・民の融合による教育」の意義、学校と地域が連携・協働する意義を、学校と地域が再確認し、持続可能な事業として継続的に充実が図られるよう、教職員や社会教育関係者、地域団体等が連携・協働できる環境づくりを進める必要がある。

昨年度大きく改善した「地域や外部団体からのニーズ・要望の増加」に関して、本年度は大きな成果が見られなかった。これは、「目標共有の会を経ての役割分担」が上手く進まなかったためであると考ええる。

令和2年度からモデル校実施が決まっている学校運営協議会において、「目指す子ども像」「目指す地域像」等を共有するだけでなく、それぞれの団体が、何をどこまで担うのかを話し合っていくことが重要である。これまで進めてきた『重点化』に関しては継続した取組を進め、どの学校でも「目標共有の会を経ての役割分担」を重点として取組を進められるよう、研修会を充実していく。そうすることが、課題としてあげられている「教職員の負担軽減」にも繋がっていくものと考ええる。
- ② 令和2年度より実施される「第4期教育ビジョン」においても「学・社・民の融合による人づくり・地域づくり・学校づくり」が中心的な考え方に設定されている。公民館をはじめとする社会教育施設とさらに連携を進め、協働できる機会の検討を進めていく。
- ③ 「目標共有の会を経ての役割分担」を推進するためにも、研修の充実や、広報活動等を工夫・充実することで周知の機会の拡大などの手立てを講じ、保護者や教職員そして地域住民の事業に対する理解をいっそう促し、地域との連携・協働を充実させていく必要がある。
- ④ 「本事業とコミュニティ・スクールの関係が理解できていないための不安」「非常勤職員から会計年度任用職員への移行に関する不安」等を抱いている地域教育コーディネーターが多い。様々な研修会を通じてそれらの不安が払拭できるように説明し、理解を求めていく。(研修会アンケートより)